

令和7年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (2月24日実施)	総合評価 (3月17日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	1 「キャリア教育」の視点、シチズンシップ教育」の視点を踏まえて、教科横断的な授業を定着させる。 2 ICTの利活用を推進する。	1 「防災教育」「心とからだ」「消費者教育」「進路学習」について、教科横断的、系統性のある3年間の学習内容表を作成する。 2-①生徒一人ひとりが安全に留意しながらノートパソコン等を活用した学習経験を積むことができる。 2-② ICT活用に関する研修内容を活かした授業実践例を増やし、スキルを共有できる仕組みづくりを進める。	1 グループでそれぞれのテーマでの扱う学習内容を検討する。学習内容を扱う教科や学習場面、時期等、細分化しながら整理する。 2-①ICT管理マニュアルに基づき、情報モラル、情報リテラシーについての学習を行う。ルールを守ってノートパソコンを活用できたかアンケート等により確認する。 2-② 実践形式の研修を計画する。実践の好事例を取り上げる等して、活用イメージを共有できるように工夫する。教員対象のアンケートにより実践状況や活用に向けた意識の変容を確認する。	1 テーマごとに教科横断的かつ系統性のある3年間の学習内容表を作成することができたか。 2-① ルールやマナーを守り、ノートパソコン等を使って学習することができたか。 2-② ICT活用の実践例を昨年度よりも増やすことができたか。また、スキル等を共有できる仕組みを構築することができたか。	1 テーマにより、学年ごとにステップアップしていくもの、繰り返し学習場面を設定するとよいものがあるということが見えてきた。 2-① ノートパソコンを使用した学習では、ルールやマナーを守り、コメント入力や作品制作等を行うことができた。 2-② グラフィックデザインツールやデジタル掲示板アプリ等、ICT活用に関する研修を行った。教材作成や授業の中で生徒が活用する場面も多く見られた。	1 テーマごとに得られた3年間の学習内容や扱う時期等についてのアイデアを各学年の該当教科の年間指導に盛り込む。 2-① 生徒が安全かつ主体的にICT機器を活用した学習経験を積めるよう、教員向けの知識と技能の向上を目指した研修を行う。 2-② 実践形式の研修により、学習教材等としての活用イメージにつなげる。個々から、校内全体での活用につながるよう、教材等を蓄積し共有していく。	【アンケート】 ・授業はわかりやすいですか(そう思う・少し思うの合計) 生徒89%・保護者96%・教員95% ・いつも生徒達のことを第一に考えてくれている。 ・生徒自身の言葉で表現できるようになるとよい。 【アンケート】 ・ノートパソコンや電子黒板を使った授業は、よかったですか(そう思う・少し思うの合計) 生徒90%・保護者77%・教員80% ・授業でのノートパソコン、大型電子黒板の活用が進んでいる。	1-① 教科会で学習内容、題材や教具、指導場面等について、協議ができた。系統性についての課題が見えてきた。 2-① ノートパソコンや大型電子黒板を活用しルールやマナーを守りコメント機能を取り入れるなどした授業を行った。 2-② ICT活用に関する体験的な研修を行った。リモート研修方式にも挑戦し、個々のペースに合わせて取り組むことができた。	1-① 教科横断的な視点で整理し、系統性のある指導になるよう、各学年の該当教科の年間指導計画と連動させる。 2-① ICT機器を活用した効果的な学習を展開できるよう、職員研修を行っていく。 2-② 教員のニーズに応じた研修を計画し、校内全体での活用につながるよう、スキル、教材等を蓄積し共有していく。
2 (幼児・児童) 生徒指導・支援	1 生徒個々の長所、強みに着目する視点を重視して、実態を把握し、ニーズに応じた指導、支援を行う。 2 生命(いのち)の安全教育を推進し、生徒が安心して学べる環境をつくる。 3 生徒自らの安全確保につながる意識を育てる。	1 アセスメントによる評価を活用し、合理的な配慮がなされた学習活動を実践する。 2 自分自身を大事にする授業内容の精選やその検証を行う。生徒が安心して学べる環境をつくる。 3 学校生活における災害時の危険を知り、危険を回避する方法など、できることについて考え、家庭でも活かせるようにする。	1 太田ステージの評価から導き出される見立て方や支援の方策例を学ぶ研修を行う。アセスメント結果から検討した合理的配慮が学習活動に反映されているか確認する。 2 交通安全、携帯電話、サイバー犯罪、いのちの授業等、「〇〇教室」の内容の精選、検証を行う。捜索や緊急下校等の訓練を実施する。また学校保健計画に基づき学校保健を推進する。 3 揺れ、火災の疑似体験を通して学校生活で災害時の状態を想像できるようにする。また、危険を回避する方法やその時に自分ができる防災活動のきっかけとする。	1 アセスメント結果を活用した学習活動が展開できたか。 2 「〇〇教室」等の内容精選や社会状況に沿ったものであるかの検証ができたか。緊急時の訓練を実施できたか。また学校保健計画に基づき学校保健を推進できたか。 3 災害時に学校生活で起こりうる状態を想像することができたか。災害時の危険やそれを回避する方法について考えることができたか。また、自分は何ができるのかを考え家庭で話題にできたか。	1 国語・数学におけるアセスメント結果を基にした学習教材や支援方法の検討と実践について、校内研究に取り組み、実態に応じた支援につなげることができた。 2 「サイバー犯罪」は、事故未然防止につながった。「〇〇教室」は社会状況を鑑み、精選、検証した。学校保健計画に基づき生徒や保護者に丁寧に寄り添い推進できた。 3 事前学習を行ったことで訓練当日は興味関心を持ち活動に臨むことができた。また、連絡帳で訓練の様子を保護者に伝えたことが、家庭の防災活動を見直すきっかけとなった。	1 アセスメント結果を活かした個別教育計画を作成し、生徒の実態に応じた学習活動を行う。 2 緊急時の訓練は、教員の動きでの反省を活かした次年度に引き継ぎ、再来年度は、生徒参加で取り組む。いのちの授業は、年間指導計画にて内容を精選予定である。 3 放送機器が使えない設定の訓練で教員間の伝達が滞る場面があった。誰が見ても分かりやすい伝達メモの作成など正確な情報を伝達し安全な避難行動が取れるようにする。	【アンケート】 ・個別教育計画はアセスメントをもとに作成され、指導や評価に活用されていると思いますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者94%・教員92% ・いのちの授業やいじめ防止アンケート等により安心して学べる取組みをしていると思いますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者83%・教員93% 発信を継続する。 【アンケート】 ・防災訓練や授業等により、身の安全を考えた行動、家庭でも活かせる力が育成されていると思いますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者87%・教員92%	1 アセスメント結果を基にした支援方法について、研修、研究に取り組み、実態に応じた支援につなげることができた。 2 「〇〇教室」は社会状況を鑑み、精選、検証した。学校保健計画に基づき生徒や保護者に丁寧に寄り添い推進できた。 3 訓練を通して、災害時の状態を想像し、教員の指示や放送を聞き、危険回避行動を取ることができた。その様子を連絡帳等で伝えましたことが、家庭で防災について話すきっかけとなった。	1 アセスメント結果を活かした個別教育計画を作成し学習活動に反映されているか確認する。 2 いのちの授業は継続する。緊急集団下校は教員の動きの確認が必要である。学校保健について対応マニュアル等検討していく。 3 避難訓練を意味のあるものにするために、事前、振り返り学習を行うように実施計画に明記する。また、訓練で正確な情報を伝達し安全な避難行動が取れるようにしていく。
3 進路指導・支援	1 将来の充実した生活を目指して、生徒個々の発達段階に応じた進路指導、支援を行い、希望する進路の実現と定着支援を図る。	1 系統性のある3学年分の「職業」年間指導計画を作成し、3年間を通した進路学習が行えるようにする。	1 「職業」の教科で、進路学習内容一覧を年間指導計画に取り入れる。また、進路校外学習との関連性、教科横断的な進路学習について検討し、次年度の年間指導計画等に反映できるよう整える。	1 進路学習内容一覧を活用した職業の年間指導計画を作成、他の教科での反映に向けた検討ができたか。また、進路校外学習についても系統性のある学習を踏まえた内容になるよう検討することができたか。	1 1・2年の進路校外学習について反省をもとに検討し、生徒の実態に合った見学先の検討をすることとした。また、外部講師を招いての授業を今年度は3年でも取り組んだ。	1 外部講師の活用について、1年生でも有効であれば進路・学部と検討し、2、3年生についても外部講師を招いた授業を継続していきたい。	【アンケート】 ・進路面談や進路説明会などで、一人ひとりに応じた情報提供が行われていると思いますか(そう思う・少し思うの合計) 保護者90%・教員93% ・引き続きわかりやすい情報発信の場を提供していく。	1 進路学習内容一覧を参考に職業の年間指導計画を各学年で作成した。指導内容を網羅できるよう、各教科での扱い方の整理を行った。また、進路校外学習のねらいと活動内容等について検討を行っていく。	1 各教科の年間指導計画に進路学習内容一覧の内容が反映されているかの確認を行う。学年、学部内で意見交換しながら事前事後学習等も含んだ系統性のある進路校外学習を展開できるようにしていく。

	視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（3月17日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（2月24日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	1 学校と地域が連携・協働して、共生社会の実現に向けた活動を行う。	1-① 地域との結びつきを活かした活動を通して、生徒が役割意識や目標をもち、主体的に取り組む姿勢を育てる。 1-② 避難訓練時の評価者に助言をもらうなど、地域の方と連携して防災教育に係る活動を展開する。	1-① 作業学習や地域でのイベントにおいて、校外や地域等の他者との関わりを意識できるような事前事後学習を行う。振り返りにより、生徒の意識の変容を把握する。 1-② 地域の方に避難訓練時の評価者役をお願いし、アドバイスをいただく。避難所体験で、地域の方と一緒にできる活動を考える。	1-① 生徒が役割意識や目標をもち、主体的に地域の中での活動に取り組むことができたか。 1-② 地域の方からの避難訓練の評価やアドバイスをもとに、改善できたか。避難所体験で、地域の方と生徒が、より協力した活動ができたか。	1-① ガバオ祭での参加範囲拡大、バンの外部販売回数増など地域との結びつきを活かした活動を継続できた。ガバオ祭事後学習で振り返り、地域で活動していることを改めて実感することができた。 1-② 地域の方の協力により避難所体験を行った。簡易トイレ、テントなど発災時の状況を体験できた。また避難訓練時のアドバイスを安全な避難に活かした。夏季公開講座を実施し、周辺地域の地形から起こりうる災害について地域の方と共通理解できた。	1-① 予定していたHP発信まではできなかった。次年度も計画に組み込み、役割分担して取り組んでいく。 1-② 地域の方に防災物品の使い方などの説明をしてもらったことで、生徒が質問しやすい雰囲気を作れた。次年度は、生徒と地域の方が、さらに深く関わられるような工夫が必要である。	【アンケート】 ・地域の学校や自治会、関係機関と連携した教育活動を進めていると思いますか（そう思う・少し思うの合計） 保護者 88%・教員 89% ・近隣宅や公園の清掃等感謝されている。引き続きお願いしたい。 ・避難所体験は地域の方の協力を得られてよかった。 【アンケート】 ・生徒・保護者や地域の小中高等学校に対し、教育相談などによる支援、情報発信に取組んでいると思いますか（そう思う・少し思うの合計） 保護者 71%・教員 95% ・教員研修も実施できた。 【アンケート】 ・生徒・保護者や地域へ、よこひな通信やホームページにより、わかりやすい情報提供に努めていると思いますか（そう思う・少し思うの合計） 保護者 91%・教員 97% ・HPについて高い評価を得た。	1-①ガバオ祭での参加範囲拡大、バンの外部販売回数増など地域との結びつきを活かした活動を継続できた。役割意識や自己有用感を高められるよう、事後学習等指導工夫した。 1-② 地域の方に避難訓練の評価者として参加していただいた。夏季公開講座を実施し、学校周辺地域の地形から起こりうる災害について地域の方と共通理解できた。 2 専門職相談、ケース会実施数が増えた。教育相談や巡回相談の実績について校内で報告し、校外への情報発信としてよこひな通信に掲載した。またOT支援グッズアイデア集を掲示板に記載した。 3 他校を参考にし、ホームページの見出しの整理を進めた。学年通信に二次元コードを掲載し、面談で保護者から利用状況について聞き取りをした。10月～11月にホームページやチラシで、一般向けのニーズ調査（アンケート）を実施し、課題の把握ができた。	1-① 校外や地域との関わり合いの活動について、校内での共有やHP発信できるようにしていく。次年度も計画に組み込み、役割分担して取り組んでいく。 1-② 評価しやすい項目を見直す。生徒と地域の方が、さらに深く関わられるよう、地域防災拠点であることを意識した活動を計画する。 2 専門職相談後、生徒の支援について考えられるよう呼びかけ、校内支援体制の強化や充実につなげる。また、巡回相談やセンター的機能等についての情報発信を継続する。業務縮減の観点も踏まえ、相談班の業務内容を見直していく。 3 見出しの整理と内容の更新を行う。二次元コードの掲載に気づいていない保護者もいるため、二次元コードの活用について周知を行う。アンケート結果をどのようにホームページに反映させていくか検討する。
		2 支援教育の充実を目指し、センター的機能を発揮する。	2 学年・学部に働きかけを行い、ケース会や医事相談等の「相談」をより浸透させる。また、巡回相談の状況等、センター的機能に関する情報発信を行う。	2 「相談の流れ（令和7年度作成）」を参考に「相談」についての呼びかけを行う。また、センター的機能について、役割意識を職員間で共有したり、取組状況等をよこひな通信で保護者等へ発信したりする。	2 支援方法等について、様々な規模でのケース会や話し合いが行われたか。また、学校が担う役割や巡回相談の状況等、センター的機能に関する情報発信を行うことができたか。	2 校内の相談について、支援方法やアセスメントの提案を行った。外部支援者参加のケース会等必要に応じたメンバーで行うことができた。巡回相談の実績についても校内で報告し、センター的機能の充実を図っていることが確認できた。	2 業務縮減の観点も踏まえ、相談班の業務内容を見直す。コーディネーターも専門職と捉え、人材育成についても考えていけるとよい。	3 見出しの整理が進み、ニーズ調査からも見やすいと一定の評価を得た。二次元コードの活用はさらに周知が必要。アンケートから約8割の方に肯定的な評価を得た。要望のある「進路」や「作業ユニット」等の情報を多く掲載していきたい。	【アンケート】 ・生徒・保護者や地域へ、よこひな通信やホームページにより、わかりやすい情報提供に努めていると思いますか（そう思う・少し思うの合計） 保護者 91%・教員 97% ・HPについて高い評価を得た。	3 見出しの整理と内容の更新を行う。二次元コードの掲載に気づいていない保護者もいるため、二次元コードの活用について周知を行う。アンケート結果をどのようにホームページに反映させていくか検討する。
		3 ホームページを活用した情報発信を充実させる。	3 保護者のニーズ調査を活かした、見やすいホームページ作りを推進する。また、ホームページ上で一般向けのニーズ調査を行う。	3 ホーム画面の見出しを整理する。二次元コードについて通信に掲載するなど、利用を推進し情報の探しやすさにつなげる。一般向けのニーズ調査を行う。	3 見出しの整理をすることで見やすくなったか。二次元コードを利用し、情報の探しやすさにつながったか。ニーズ調査の結果を改善につなげられたか。	3 他校を参考にし、ホームページの見出しの整理を進めている。学年通信に二次元コードを掲載し、面談で保護者から利用状況について聞き取りをした。10月～11月にホームページやチラシで、一般向けのニーズ調査（アンケート）を実施した。	3 見出しの整理が進み、ニーズ調査からも見やすいと一定の評価を得た。二次元コードの活用はさらに周知が必要。アンケートから約8割の方に肯定的な評価を得た。要望のある「進路」や「作業ユニット」等の情報を多く掲載していきたい。	【アンケート】 ・生徒・保護者や地域へ、よこひな通信やホームページにより、わかりやすい情報提供に努めていると思いますか（そう思う・少し思うの合計） 保護者 91%・教員 97% ・HPについて高い評価を得た。	3 見出しの整理と内容の更新を行う。二次元コードの掲載に気づいていない保護者もいるため、二次元コードの活用について周知を行う。アンケート結果をどのようにホームページに反映させていくか検討する。	
5	学校管理 学校運営	1 教職員の専門性や人権意識、服務規範意識の向上を図る。	1 人権や不祥事防止に関する意識の醸成を図る。	1 人権研修や不祥事防止研修をとおして、人権や不祥事に関する意識の醸成を図る。	1 研修後にアンケートを取り、振り返ることができたか。また、研修の方法を工夫できたか。	1 研修では、受講、協議方法の工夫をし理解促進をはかった。不祥事防止について、毎月の点検、研修、会議と臨時的研修を実施した。	1 研修で共感的に受け止めた人権の大切さを教育活動に活かすため、引き続き人権意識を磨く取組を継続する。不祥事防止については情報共有を重視し同僚性の醸成を図る。	【アンケート】 ・人権に配慮した丁寧な指導を行っていると思いますか（そう思う・少し思うの合計） 保護者 94%・教員 95% 【アンケート】 ・研修などで専門性を向上し授業や指導を行っていると思いますか（そう思う・少し思うの合計） 保護者 75%・教員 87% ・授業力向上など徹底すべき課題と感じる。	1 人権の大切さを、教育活動に活かすため、引き続き人権意識を磨く取組を継続する。不祥事防止について、情報共有を重視し同僚性の醸成を図っていく。 2 業務の効率化、環境整備、時間外勤務時間について、意識向上を図っていく。	
		2 教職員の健康管理を徹底する。	2 イエローカード受領者への受診、ストレスチェック等の受検率を上げる。健康管理に関する啓発資料や情報を周知する。	2 健診結果を把握し、未受診の教職員へ繰り返し周知する。管理職や産業医による面接を実施したり、産業医の指導助言を周知したりする。	2 教職員が受診することができたか。管理職や産業医による面接、産業医の指導助言資料の周知を実施できたか。	2 健診結果を把握し要再診の教職員へ周知した。衛生委員会にて産業医へ事例相談を行い、産業医の指導助言を周知した。	2 業務の効率化、環境整備について、時間外勤務時間の情報共有をし、意識向上を促す。	【アンケート】 ・ICTを活用する等効率化の意識をもって業務を行っていると思いますか 教員 86% ・業務の整理を行い、教育課程変更後の教育活動の検証を行う。	2 健診結果を把握し、未受診の教職員へ周知した。衛生委員会にて産業医へ事例相談を行い、必要に応じて管理職の面接を実施し、産業医の指導助言を周知した。 3 日課表や会議設定の見直し等を行った。様々な見直しや新たな書式の導入等についてことで業務の効率化の検証を進めた。服務等手続き等のICT活用、簡略化を行った。	
		3 業務の効率化や職場環境の整備と促進を図る。	3 業務の効率化に関する提案と実践を進め、ICTを活用した事例を収集し、実践する。	3 職員から意見を聴取して課題を整理するとともに改善策の提案をして実行に結びつける。また、ICTを活用した実践にもつなげる。	3 職員から意見を聴取して課題を整理することや改善策の提案をすることができたか。ICTを活用した実践を行うことができたか。	3 各書式の見直し等を行った。変更点や運用に関連する校内向けの説明会や学習会等も実施した。	3 今年度行った様々な導入等について検証を行い、業務の効率化に活かす。	【アンケート】 ・ICTを活用する等効率化の意識をもって業務を行っていると思いますか 教員 86% ・業務の整理を行い、教育課程変更後の教育活動の検証を行う。	3 今年度実施した様々な見直しや新たな書式の導入等についてことで業務の効率化の検証を進めた。服務等手続き等のICT活用、簡略化を行った。	